Nevo Q50 Remote Control
for dCS Scarlatti
User Manual（日本語和訳 取扱説明書）

Scarlatti Transport にはスカルラッティシステム用にソフトウェアがインストールされた Nevo Q50 リモートコントロールが付属しております。
Nevo Q50 リモートコントロールはスカルラッティシステム用ですが、パガニーニ、プッチーニ、ドビュッシーそして旧製品の一部にも使用できます。
この和訳取扱説明書は、同梱されております本マニュアル（英文）を基に解説しております。
本マニュアル（英文）と一緒にご参照ください。

Nevo Q50 は非常にパワフルでフレキシブルなプログラム可能なリモートコントロールです。
洗練されたコントロール機能、その他の機器のコントロールも可能な優れたリモコンです。

<！> 標準プログラムに加えたカスタム機能についてはお客様の責任で行っていただきます。dCS 社当社はその際に生じ得る問題についての責任は負いかねます。

dCS の標準ファイルは以下のホームページからダウンロードできます。
www.dcsltd.co.uk/page/support.

Q50 の保証期間はご購入から 1 年間です。万一不具合等が発生いたしましたら、当社サービス課までご連絡のほどをお願い申し上げます。

株式会社 太陽インターナショナル
〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-12-9 日本橋グレイス 1F
Tel:03-6225-2777 Fax:03-6225-2778

<Page 4>

準備（ご使用になるには）

NEVO Q50 を取り出しましたら、左を上にして　図のようにグレーのカバーを開けます。NEVO の上部左端に格納されているスタイラスを使って、図のようにスライドスイッチを ON にします。

カバーをはめて、本機がブートアップして日付、時間をスタイラスでセットし、OK を押します。
チャージャーにある（NEVO を載せたときのスクリーンの下あたり）ソケットにチャージ用ケーブルのプラグを差し込み、電源を入れます。

Q50 をご使用の前にドッキングステーションに載せてチャージをします。Q50 をご使用にならないときにはこのドックステーションに載せ、バッテリーチャージを行ってください。

<Page 5>

各部の名称

Nevo Q50 を使用するにはボタンを押すかスクリーンに触れることで使用可能状態となります。標準設定では Q50 はボタンを押し終わってから 30 秒でパワーダウンされます。

<Page 6>

図の通り、スクリーンの下４つのボタンはどの機器を選択するかのデバイスコントロールです。スクリーンの下にどの機器（トランスポート、DAC、アップサンプラー、クロック）に対応するかが表示されます。これらはラベルであってタッチボタンではありません。

右側のスクロールホィールは各機器のページを選択します。このスクロールウィールを押し込むことによって Q50 の選択した機器の最初のページに戻ります。

さらに、4 つの矢印ボタンでも、選択した機器の次ページ、前ページを選択できますし、ページのアップ/ダウンも出来ます。

INFO ボタンは機器を選択するメニューを開き,機器情報(UNIT INFORMATION)ページを案内します。このページは選択した機器の今の状態を報告します。セットアップエラーを解決するのに便利です。

選択する機器のメニューに入るには、その機器を選び、メニューボタンを押します。メニューの前進/後退(FORWARD/MENU BACK)ボタンを使用して必要なメニューページを探します。もう一度メニューを押してページを選択し、必要な設定に変更します。終了したら 5 秒待つと、自動的にクローズします。

ボリウム+/-とメニューボタンは DAC またはプレーヤーのボリウムを調整します。これは、選択されている機器に関係なく、（たとえば、トランスポートのメニューが選択されていても）DAC,プレーヤーのボリウムを調整します。
同様に CD トランスポートの一連のボタン（ディスプレイを上にして、下の 7 つのボタン）は選択されている機器に関係なくトランスポートをコントロールします。

ロゴページ

Q50 がブートアップされるとロゴページがディスプレイに現れます。どのバージョンかがこの画面で解ります。（ここでは、v2.30）

・ システムパワーページに戻るにはスクリーンに触れます。
・ もう一つの方法は、DAC、CD(トランスポート）、Clock、Ups（アップサンプラー）とスクリーン上に表示されているラベルの直接下に位置するボタンを押すと、各機器メニューページの１ページに行きます。

システムパワーページ

ホームページ　Home Page
右側面にある Home（ホーム）ボタンを押すことでこのページを使用できます。

・ dCS システムがスリープモードであれば、システムウェイクボタンを押して作動モードにします。
・ 演奏を終えるとき、システムスリープボタンを押すことで dCS システムはスリープモードに入ります。スリープモードではシステムはあたためられており、いつでも使用状態になります。
・ 完全にスイッチを切る場合、システムスリープをセットして、その後オフ(OFF)ボタンを押します。一度パワーダウンしたら、dCS 機器は各ユニットフロントパネルのパワーボタンを押さねばなりません。
・ dCS アップサンプラー、DAC、クロックのシステムをお持ちで、使用状態にあるときに、アップサンプラーセットアップボタンを押すと、アップサンプラーマクロページにジャンプします。
・DAC,CD,CLOCK,UPS ラベルのボタンを押すとそれぞれのメニュー1 ページ目にジャンプします。そのときの機器の名称がスクリーントップに表示されます。

パガニーニシステムは同様に反応します。
プッチーニプレーヤー、ドビュッシーDAC は Wake, Sleep, OFF に反応します。

<！> このページの３システムボタンは全てのシステムにインターバルを持って送られます。（マクロと呼ばれています）これによるコマンドは全ての dCS 機器がボタンを押した後、約５秒間赤外ビームを受け取れる場合に限られます。コマンドが送られたときにはスクリーン上部に赤い波形のパターンが表示されます。コードが長い場合には「Please wait」と画面に現れます。

スカルラッティ DAC をコントロールする

シルバーボタン、DAC を押すことで、DAC 入力(Input)ページ目にジャンプします。

DAC 入力ページ

以下のボタンを押して入力を選択します。
・ Input +-: 順番にある次の入力を選択します。
・ 1394-0： 1394 インターフェィス、ソース０を選択。同様に 1394-1 はソース１を、1394-2 はソース 2 を選択します。これ以上のソースが接続されていれば、Input+ボタンによって選択するか、次のページを見ます。
典型的な４機のシステムをご使用の場合、1394-0 はトランスポート チャンネル(STT)、1394-1 はアップランプラー チャンネル(SUP)となります。

パガニーニ､ドビュッシーDAC は同様に操作できますが､スカルラッティよりは入力端子が少ないです。プッチーニは Input+, RCA1, RCA2 ボタンのみ使用できます。

DAC セッティングページ

・ 3 Sync Source Setting ボタン(WClk, Audio, Master)ボタンによって、ご使用のユニットへのシンクロソースがセットされます。DAC は各入力に対して選択されたモードを個別に記憶します。また、ワードクロック結線がマスターモードかワードクロックにシンクロさせられるように正しく結線されているかどうか、が大切です。（DAC 取説を参照）
・ フィルターボタンは DAC フィルター設定を変更します。フィルターについては DAC の取説をご参照ください。
・ ボリューム/バランスボタンは直角三角形の鋭角を向かい合わせたロゴ（中央に位置）を押すことよって左側にあるボリュームコントロールでバランスを調整します。変更を戻すにはもう一度このボタンを押します。
・ フェーズボタンは DAC アナログ出力全ての位相を変更します。ノーマルにするにはもう一度このボタンを押します。
・ 1394-3 はソース３の 1394 インターフェイス、1394-4 はソース４の 1394 インターフェイスを選択します。
・ ディスプレイ オン/オフボタン(テレビ画面に X)はメインディスプレイをオン/オフにします。
・ 立ち上げ(W AKE)ボタンは（ひし形にＩ）はユニットがスリープモードの場合に、使用できる状態にします。
・ スリープボタン(三日月)は、音楽を聴き終わったときに DAC 出力をミュートに、ディスプレイを消します。

・ DAC がスリープモードの時､オフボタン(◯)を沿うことで DAC の電源を完全にシャットオフします。

パガニーニ DAC は同様に操作できます。

プッチーニはフィルター、バランス、フェィズボタンのみ動作します。

ドビュッシーDAC はフィルター、フェイズ、ウェイク(立ち上がり)、スリープ、オフ、ボタンが動作します。

<！>　WClk シンクロソースセッティングのリモートコマンドはスカルラッティ DAC（パガニーニ DAC）ソフトウェア　1.10 に追加されました。1.10 以前のバージョンの DAC には反応しませんのでご留意ください。

スカルラッティトランスポートをコントロールする

ディスプレイ上の CD 直下のシルバーボタンを押すとトランスポートページの 1 頁にジャンプします。

CD コントロール

Q50 にはトランスポートコントロール専用のシルバーボタンがリモートコントロール下部に用意されています。

ディスクをストップ/イジェクト(Stop/Eject)

・ 前トラック（リターン矢印）プレイ/ポーズ‖(Play/Pause)、次トラック→ I

・ 早戻し◀◀、プレィ/ポーズ‖(Play/Pause)　 早送り▶▶

・ 早戻し、早送りを一度押すと２倍速で、もう一度押すと４倍速、さらにもう一度押すと８倍速、そしてもう一度押すとプレーモードに戻ります。

・ 早送り、早戻し注にプレィ/ポーズ‖(Play/Pause)をおすと通常のプレーモードになります。

・ ストップ、ディスクイジェクト■

・ ほかの 2 つのボタンは使用しません。

パガニーニトランスポート、プッチーニとも同様に動作します。

CD 番号ページ

・ 0-9 ボタンによって演奏するトラックを選択、又はトラックを選択してプログラムする場合に使用します。例えば、5 を押すことで、トラック 5 に、また 1 を押してすぐに 2 を押すとトラック 12 に行きます。

・ プログラムを押すと、キーボードページとなり、トラック順にセットが出来ます。(PGM モード)　1～9 までのトラックの場合、０を最初に付けると（たとえば、01、09 など）プログラム動作が早くできます。トラック順に番号を入れ、（例：01　　03　　05　　07）プレーボタンを押します。（トラックが聞けます）プログラムボタンをもう一度押すとトラック順をキャンセルし、通常にディスクを演奏します。プログラムモードの時に、クリアーボタン(CLEAR)を押すと入力した最後のトラック番号をデリートします。プログラムモードはトレィが開いたときにキャンセルされます。

・ モード(PGM)の時は、クリアー(Clear)ボタンを押すことで最後に入力したトラックをデリートします。

・

・ パガニーニトランスポート、プッチーニとも同様に動作します。

CD セッティングページ設定

・ リピートボタンによって、今演奏しているトラックをリピート(Repeat TRK),もう一度押すとディスク全体をリピート(Repeat DSC)します。さらにもう一度押すとリピートがキャンセルされます。（Repeat Off）

・ ディスプレィモードはディスプレィされた情報を変更します。経過トラック時間、トラック残量時間、全経過時間、全残量時間、が選択できます。

・ Layer（レイヤー）はハイブリッドディスク演奏の時にレイヤーを変更します。

・ ディスプレィオフはメインディスプレィをオフ/オンにします。

・ ウェイク(Wake)ボタンはユニットがスリープモードの時に動作モードにします。

・ スリープボタンはトランスポート出力をミュートに、そして停止しディスプレィをオフにします。

・ トランスポートがスリープモードの時に、オフボタンを押すと（◯）完全にパワーをオフにします。

パガニーニトランスポート、プッチーニとも同様に動作します。

スカルラッティクロックをコントロールする

シルバーボタン　クロック(Clock)を押すことでクロックページにジャンプします。

クロックセッティングページ設定

・ 周波数ボタン(Frequency)を押すことでクロック周波数を変更します。
・ 44.1k ボタンはクロック周波数を 44.1k Hz に設定します。
・ 48k ボタンはクロック周波数を 48k Hz に設定します。
・ ディザ（Dither）ボタンはディザをオン・オフします。
・ ディスプレィオフはメインディスプレィをオフ/オンにします。
・ ウェイク(W　AKE)ボタンはユニットがスリープモードの時に動作モードにします。
・ スリープボタンはクロック出力をミュートに、そして停止しディスプレィをオフにします。
・ クロックがスリープモードの時に、オフボタンを押すと（◯）完全にパワーをオフにします。
・
・

パガニーニクロックは同様に動作します。
プッチーニクロックは赤外リモートに対応していません。

スカルラッティアップサンプラーをコントロールする

ディスプレィ下部の UPS(アップサンプラー)を押すことでアップサンプラー入力ページにジャンプします。

アップサンプラー入力ページ設定

・ 6 個のボタンによってアップサンプラーの入力モードを選択します。
(AES、RCA1、RCA2、BNC、TOS、USB)

・ ディスプレィオン・オフ(Display On/Off)ボタンによってメインディスプレィをオン/オフします。

・

・ ウェイク・スリープ(Wakep)ボタンを押すことで演奏を終了するときに DAC 出力をミュートし、メニューが開いていればそれを閉じ、ディスプレィを消します。もう一度押すと通常の動作に戻ります。

・ アップサンプラーがスリープモードの時に、オフボタンを押すと(◯)完全にパワーをオフにします。

パガニーニクアップサンプラーは同様に動作します。

アップサンプラー出力ページ設定

・ ８個のボタンによってアップサンプラーの出力モード、又はサンプルレートを選択します。(32、44.1、48、88.2、96、176.4、192、DSD)　88.2 又は 192kS/s の出力レートではシングル・デュアル AES メニューページに必要とされるモードに設定されていることをご確認ください。アップサンプラーの出力サンプルレートは入力サンプルレートより高くなければ動作しません。(ダウンサンプルは不可)

・

・ フィルターボタンは、入出力についてそれぞれフィルターオプションを設定なさっている場合に、アップサンプラーのアンチエイリアスフィルター設定を変更します。詳しくはアップサンプラーマニュアルをご参照ください。

パガニーニクアップサンプラーは同様に動作します。

システム設定を変更するためにマクロを使用する。

<!> アップサンプラーセクションの 3 ページ目にある 7 つのボタンは、アップサンプラー、DAC, クロックに時間的インターバル(MACRO)でコマンドを送ります。コマンドはこれら 3 機種が NEVO Q50 の赤外線ビームを受け取らなければ、達成されません。ボタンを押してから 5 秒ほど必要です。

このマクロはスカルラッティ アップサンプラー,DAC,ソースがクロックにロックされているシステムのために設計されております。（アップサンプラーの取扱説明書には 4 機が接続されている説明が掲載されています。）

アップサンプラーセットアップボタンはシステムパワーページにジャンプします。

アップサンプラーマクロページ

上部の 3 つのボタンはアップサンプラーUSB インプットから 176.4、192k/S/s または DSD のコードを送り 4 機セットシステムをアップサンプラーデータをセットします。

2 列目はアップサンプラーの RCA1 入力を 176.4kS/s, DSD のデータで行うようにシステムを設定します。

3 列目はアップサンプラーの RCA2 入力を 176.4kS/s, DSD のデータで行うようにシステムを設定します。

パガニーニクアップサンプラーは同様に動作します。

NEVO が長いコードを送っているときに、左のように「お待ちください」（Please wait …..）と画面に表示されます。

誤動作を防ぐためにこの「お待ちください」というページが消えるまで、このリモートを機器に向けておいてください。

設定の変更

リモートの設定を変更なさるときは、スタイラスで赤くなったバナーを触れてください。どのスクリーンの状態でも行えます。

アバウトボタン(ABOUT)を押してこのリモートの設定とファームウェアの詳細を確認します。
スクリーン下部のセッティング(SETTINGS)ボタンによって下のような画面を開きます。

キャリブレーション(CALIBRATION)はタッチスクリーンの制度を修正し通常にします。
日付(DATE &TIME)はスクリーン上で日付を変更します。
パワー(POWER)はパワーダウンの時間を変更をします。
バックライトはスクリーンのバックライト輝度変更、タイムアウト時間を変更します。
クローズを押すとこのメニューから退出です。

カスタマイズについて

お望みなら www.dcsltd.co.uk から NEVO Q50 のコンフィギュレーションをダウンロードし、NEVOSTUDIO PRO プログラムを使用してマクロを変更し、ご自身のシステムに独自のマクロを追加することが出来ます。

＜！＞ dCS はこのマクロ変更についてのサポートは行っておりません。ご自身の責任において操作くださいますようお願いいたします。